

令和6年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立三浦小学校

1 自己評価書

教育目標	ふるさとを愛し、夢や希望を持って、たくましく生きる三浦の子の育成					
基本方針	「とどめおかまし三浦魂」の精神を継承しながら生きる力を育成し、新たな時代に対応できるたくましい、三浦の子の育成を目指す。□					
本年度重点目標	1 活力と魅力ある学校 2 地域とともにある学校 3 ぬくもりのある学校づくり 4 安心・安全な学校					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成	A	A
			・具体的な対策の実施	A		
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート	A	B
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・保護者アンケート	B	
			一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・児童生徒アンケート	B	
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	B	A
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	A	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極に行った。	・教師アンケート	B	C
				・保護者アンケート	C	
				・児童生徒アンケート	C	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
	(成果と課題) ○全国学力学習状況調査及び県学力調査の結果を分析することで、今後取り組むべき個々の課題を明確にすることができた。 ○家庭や地域の協力もあり、地域とともにある教育活動を進めることができた。 (改善策等) ・EILS(コンテンツバンク)を活用することで、学習内容の定着に効果があった。今後も、効果的に活用していきたい。 ・校内研修を充実させることで、教職員の授業改善への意識を高めていく。 ・学校での読書活動について情報発信し、家庭での読書活動の充実に努める。					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	B	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・児童生徒アンケート	A	
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
				・児童生徒アンケート	A	
				・保護者アンケート	A	
	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	A	A		
		・児童生徒アンケート	A			
		・保護者アンケート	A			
	③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	A	A
				・児童生徒アンケート	A	
				・保護者アンケート	A	
④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート	B	B	
			・児童アンケート	A		
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート		B
・児童アンケート	A					
(成果と課題) ○関係機関との連携を密にすることで、生徒指導の充実に努め、「チーム学校」で支援することができた。 ○体験的な活動や出前授業を通して、児童一人一人のよさを伸ばし、心の教育の充実に努めることができた。 (改善策等) ・学校行事や地域行事を通して、教師と児童の「協働」及び「共遊」の機会拡充に努める。 ・児童一人ひとりが自分の良さを最大限に発揮できるように、指導・支援を継続し、自己肯定感を高めていく。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート	A	A
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	A	
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。（枠を移動しました。）	・教師アンケート	A	A
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A
	(成果と課題) ○教職員一人一人がノー残業デーを設定することにより、仕事と生活の調和を保つ「ワーク・ライフ・バランス」の実現をより一層高めることができた。 ○温かく働きやすい職場づくりに努め、教職員相互のサポート体制がよくできている。					
	(改善策等) ・引き続き、教職員相互のコミュニケーションを活性化させ、教職員の働きがいのある職場づくりに努める。 ・教職員一人一人に「働き方改革」についての研修会で話し合ったことをもとに、ウェルビーイングの向上を意識して業務に当たる。					
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた（校内体制）。	・教師アンケート	B	A
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化（地域・保護者へ）を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	B	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	(成果と課題) ○学校運営協議会委員、学校応援ボランティアの方が学校行事等で協力していただき、地域の力を学校運営に生かすことができた。 ○地域学校協働活動推進員の積極的な関わりにより、学校と地域の連携がスムーズにできている。					
	(改善策等) ・令和8年度統合に向けて、保護者や学校運営協議会で地域と学校が一体となった学校行事が実施できるように協議をしていく。 ・今後も、各種通信やホームページの公開を継続して情報を発信していく。					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満